

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

① 設置に至る経緯

本学人文学部は1969（昭和44）年の発足以来、二度の再編を経ながら、欧米・日本・アジア各地域の文化研究に加え、対象地域の言語の運用能力の習得に焦点をあてた知的かつ実践的な教育課程を提供し、異文化と自国の文化に対する広くかつ深い理解力を備えた国際的な視野と実行力を備えた国際的な視野と実行力を持つ人材の育成に努めてきた。その理念の基礎は、1922年の本学園創設以来の「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物、世界に雄飛するにたえる人物、自ら調べ自ら考える力のある人物」の育成を目的とする「建学の三理想」にある。「時代」を感じさせるこの表現は、現在では、身近な場所で広い世界に思いをめぐらせながら「自立」「対話」「実践」の力を身につけること、また「知と実践の融合」を推進することに言い換えられ、本学全体の教育目標になっている。人文学部は学科・コース・プログラム・個々の授業科目を通じてこの教育目標の実現に取り組んできたが、国際化、情報化が一層進んだ現代において、本学部の教育の意義はますます深まってきたと考えられる。

人文学部では、2005（平成17）年4月、「英米比較文化学科」「ヨーロッパ比較文化学科」「日本・東アジア比較文化学科」の三学科に再編すると同時に導入された現行カリキュラムの運用の中で見えてきた問題点について改善を施すとともに、学科名称の変更を含めた教育課程（カリキュラム）の改革を新学科の設置という形で行うこととした。すなわち従来の学科名から、いずれも「比較」の名称を外すこととしたが、それはグローバル化が進む中で「比較」の語だけでは異文化を複眼的に理解するキーワードたり得ないという認識が学部内において共有されたからである。こうした観点から、新学科においては、「比較」に加えて「交流」「接触」「越境」といった新たな教育研究上の概念を基礎としてカリキュラムを編成することになった。

② 人材養成の目標

人文学部は、広く深い教養、様々な地域における言語・文学・歴史・民俗・思想・芸術等の分野に関する専門的知識、さらに各地域言語の高度な運用能力が身につく教育を提供している。特定地域の文化について学ぶとともに、異なる文化間の交流や比較への視点を重視することにより、複雑化する国際社会において複眼的な視点で諸文化の有り様を深く洞察し、異なる文化を持った人々との交流を楽しみ、また必要に応じて自らの考えを他国の言語で発信し得る語学力を身につけた人材を育てることを目指している。とりわけ入学時から始まるゼミナールでの学びと、4年次における卒業論文執筆のための対話型の指導を軸とすることで、論理的に思考する力、自らの考えをわかりやすくまとめて伝える力、

相手の意見の正しい理解に基づいて議論する力を培い、高いコミュニケーション能力を駆使して各種の課題解決に積極的に取り組む人材を養成している。

各学科においてそれぞれ養成する人材像は、次に記すとおりである。

【英語英米文化学科】

英語英米文化学科においては、グローバル化の進展の中で国際語として役割をますます強めている英語に熟達し、かつ英語圏の多様な文化現象について専門的に学び、その語学力と知識を現実社会の営みや職業生活に生かすことのできる人材を養成する。本学科の教育目標は、高度な英語運用能力の修得、英語圏の社会と文化についての豊かな知識の獲得、加えて異なる文化間の交流への関心と文化を比較する目を養うことであり、それによって学校等において英語教育に熱意をもって携わる人、英語コミュニケーション能力が求められる職場で活躍できる人、異文化間の問題解決と平和的共存に関わる活動に貢献できる人を育成することを企図している。

【ヨーロッパ文化学科】

ヨーロッパ文化学科においては、EUの拡大と統合の進展という大きな歴史的変化の中にあるヨーロッパの姿を巨視的かつ全体的に捉え、同時に、豊かな文化を持つヨーロッパの個別の地域に注目する教育を行っている。本学科が特に重視しているのは、ドイツ語やフランス語の高度な運用能力の習得に力を入れる中で、ヨーロッパにおける言語と文化の多元性と個性、諸文化の画一化し得ない独自の価値を深く認識し、交流文化・比較文化の視点を援用して、国際的交流に貢献し得る人材、外国語や歴史や地理を教える力のある人材、日常生活と勤労の場で文化的知識を応用し、社会のあり方や人間集団の営為に豊かさを与える知恵のある人材の養成である。

【日本・東アジア文化学科】

日本・東アジア文化学科においては、第一に日本の文化を深く知ること、次いで東アジア世界の諸文化を学び、文化間の交流の歴史と現状に注目し、複眼的な視点から自文化と異文化をとらえる開かれた姿勢を育てることを教育目標としている。その具体的な方法として、本学科では中国語と韓国語の学習を奨励しており、お互いの個性を理解尊重し、身近な場所で交流を担う人、日本や東アジアの歴史や地理を教える人、文化財を守る人、東アジア地域との交流を担う人、日本や東アジアに関する情報を国際的に発信する人、日本や東アジアの言語と文化の知識を職業や地域社会の営為に生かせる人の養成である。

③ 教育研究上の目的

人文学部の教育研究上の目的を箇条書きにすれば以下のとおりである。

- ・ 3学科が共通して定めている総合科目を通じて、グローバルな視野とバランスのと

- れた教養を身につけるとともに、各種の情報の収集と処理の能力を身につけること。
- ・ 3学科がそれぞれ定めている外国語（必修英語および選択外国語）を学び、外国語によるコミュニケーション力と、情報の収集・発信を行う運用力を身につけること。
 - ・ 3学科がいずれにも「比較・交流文化コース」を設け、様々な地域における様々な形の異文化の関わりについて学ぶとともに、3学科の学生が交わる参加型少人数授業を新たに加えることにより、ボーダレス化する現代社会の諸問題を多角的に捉える幅広い視野を養うこと。
 - ・ 3学科がそれぞれ言語・文学・歴史・民俗・思想・芸術等の分野に即して1年次からゼミと講義を軸に編成されている教育課程を通じて、自ら調べ自ら考える基礎力を築き、その上で高度な専門知識と課題解決能力を身につけること。
 - ・ 各人の関心に従って専攻基礎科目、専攻専門科目を履修することにより、知識の幅を広げ、リベラルアーツの精神と学際的な探求の視点を身につけること。
 - ・ 専門ゼミ、卒論ゼミの履修と卒業論文の執筆を通じて、自発的な調査能力、データを整理・分析する力、総合する力、文章構成力、口頭による説明能力と現代的ツールを用いた情報伝達能力、意見交換（対話）を多角的に行って自説の客観性を高める力を身につけ、これを社会生活・職業生活にも応用し得る力を養うこと。

④ 卒業後の進路

人文学部の各学科が目指す卒業後の進路は、以下のとおりである。

【英語英米文化学科】

英語力やゼミで養ったコミュニケーション能力を生かして、官公庁・一般企業・非営利団体等で活躍する人材、各種の国際的な事業に貢献できる人材、英語の教員、通訳者、翻訳者等を養成することを目指している。

【ヨーロッパ文化学科】

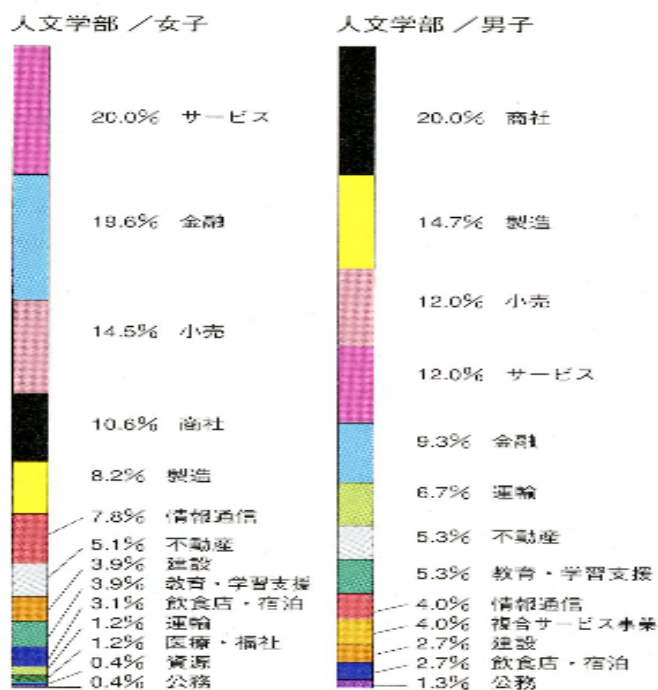
ヨーロッパ世界の歴史や現代の文化・政治・社会状況などに関する知識を深め、ドイツ語やフランス語の高度な運用能力とメディア・リテラシーを身につけることで、外国語や地理・歴史の教員、公務員や一般企業の従業員として、また非営利団体の構成員として、国際社会で活躍できる人材を養成することを目指している。

【日本・東アジア文化学科】

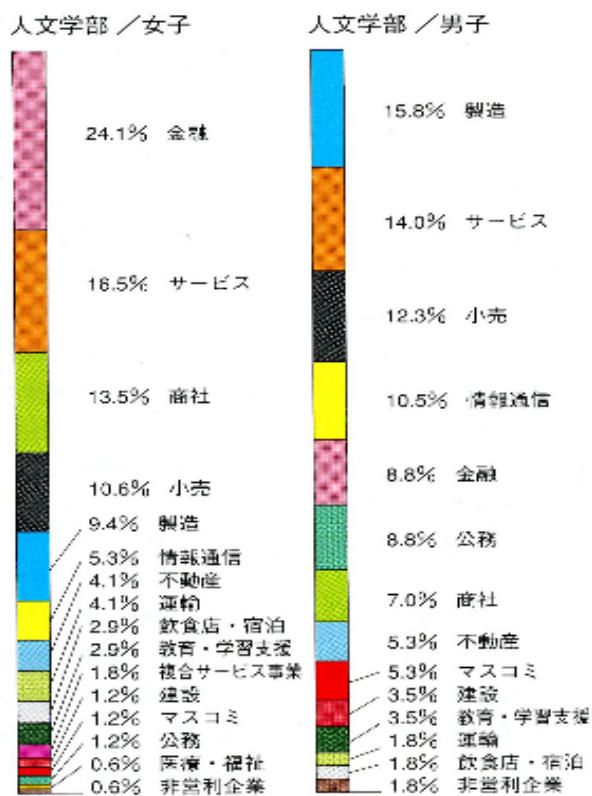
日本および東アジアの文化に関する幅広い知識のほか、中国語や韓国語などの外国語を身につけることによって、東アジア地域との交流を担う人材を養成することを目指すとともに国語や社会の教員、日本語教員、美術館や博物館の研究員、官公庁や一般企業・非営利団体等で活躍する人材の育成を目指している。

過去3カ年の卒業生の進路については、以下のグラフのとおりである。

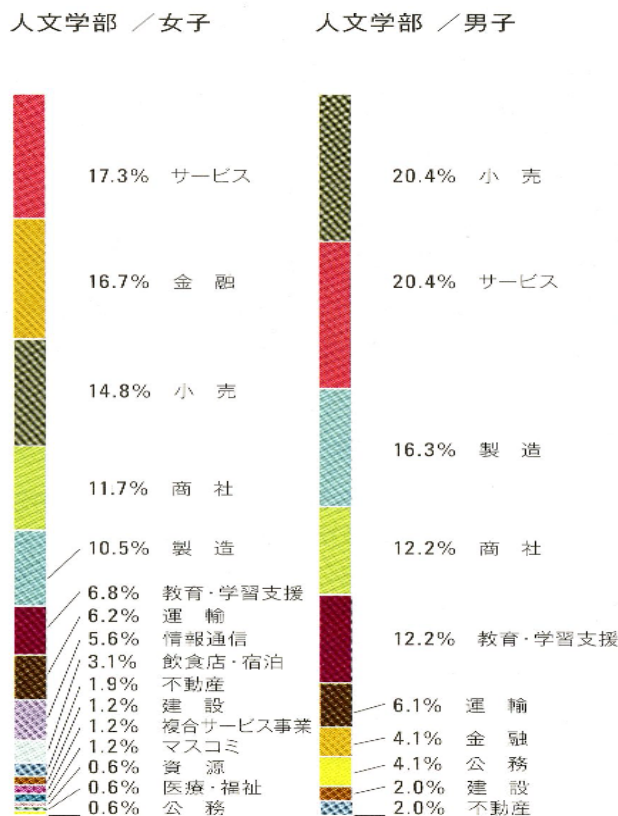
2008年度



2009年度



2010年度



イ 学部、学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に関して、大学は全体として以下の各種の機能を併有するといわれる。

- ①世界的研究・教育拠点
- ②高度専門職業人養成
- ③幅広い職業人養成
- ④総合的教養教育
- ⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究
- ⑥地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

本学は学部教育の上に、大学院（経済学研究科、人文科学研究科）を併置し、②高度専門職業人養成も行っているが、学部教育の主眼は③④の機能に重点を置いている。とくに

人文学部では、40年の伝統の中で培われてきた文化研究、比較研究をベースとして、国際化の時代にふさわしいグローバルな視野とバランスのとれた教養を身につけ、それらを職業のなかで応用していける人材の育成を目指している。

⑥については、平成8年度から大学所在地の練馬区民を対象とする練馬区武蔵大学特別聴講生制度を設け、毎年度40名近くの地域住民を受け入れ、平成22年度で15期目を迎えている。また練馬区教育委員会（練馬区公民館）との共催による公開講座、大学独自の公開講座には、人文学部専任教員が多く参加し、毎年定期的に行われることによって地域の生涯学習機会の拠点としての役割を果たしている。その他、大学全体としては近年、イブニングスクールや練馬区NPO活動支援センター事業などを積極的に推進し、地域貢献を行っている。

⑦の産学連携の事業として、本学全体（経済学部・人文学部・社会学部）で取り組んでいる授業が学部横断型課題解決プロジェクト授業である。これは、「産学連携による社会人基礎力の育成・評価事業」の内実を持ち、「CSRが重要視されている最近の社会状況の中で、学士力・社会人基礎力を高める教育としての問題意識と課題設定は適切であり、他大学に見られない取組として成果が期待される。」という評価を得て、文部科学省の平成21年度「大学教育学生支援推進事業（教育GP）」に採択されたものである。本プロジェクトは、企業からの課題に対し、前半では学部ごとにそれぞれの専門性を応用しつつ、三つの異なる角度から課題に対してアプローチを行い、その準備・予備調査段階を経て、その結果を中間発表でプレゼンテーションしたのち、学部横断型段階に入り、合同チームとしてこれまでの調査結果についての情報を共有しつつ、CSR報告書の制作に向けてディスカッションを重ねる。そこで報告書のコンセプトやコンテンツを決定し、記事の執筆やレイアウトを分担し、最終的には報告書を冊子の形でまとめ、最終報告会では、企業担当者にCSR報告書を配布し、評価を受けるとともに、制作過程やその間の人間的成長についてのプレゼンテーションも行う、という内容である。本プロジェクトは文系3学部で構成された本学にふさわしい産学連携のあり方ともなっており、現在十数社の協力企業を得ている。

国際交流に関しては、アメリカのオハイオ大学、セント・マイケルズ大学、ハワイ・パシフィック大学、イギリスのケント大学、フランスのリヨン第3大学、パリ第7大学、ドイツのハレ・ヴィッテンベルグ大学、パッサウ大学、韓国の高麗大学、中国の西安外国語大学との間で交換留学制度が締結されており、毎年十名以上の学生がそれを利用して留学し、反対に同人数の外国からの留学生を本学で受け入れている。交換ではない協定留学を含めると全部で15の協定校がある。その他、短期語学留学、海外研修制度（自ら選んだ研修先で自らのテーマにしたがって研修し、帰国後は報告書を提出する）などがあり、とりわけ人文学部の学生にとっては、国際交流の多様な選択肢が用意されている。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

①学部名称—人文学部 (Faculty of Humanities)

学位記 — 学士 (人文学) (Bachelor of Arts)

武蔵大学人文学部は「文化を総合的に研究することを通して高度な全人格的な教養を身につけた人物を育成することを目的」として、1969 (昭和44) 年に創設された。この理念は現在でも学部教育の大きな柱となっている。文学・哲学・歴史と専門分野を細分化し、蛸壺的な教育に陥らないための「文化の諸現象を総合的に学ぶ」という創設以来の基本的理念の継承とともに、「全人格的な教養」というリベラルアーツ教育の目的に合致した学部名称として「人文学部」を用いている。

②学科名称—「英語英米文化学科」(Department of British and American Studies)

「ヨーロッパ文化学科」(Department of European Studies)

「日本・東アジア文化学科」(Department of Japanese and East-Asian Studies)

「英語英米文化学科」の呼称は、従来の「英米比較文化学科」の学科名を改めたものである。冒頭の設置の趣旨で記したように、グローバル化が進む中で「比較」の語だけでは異文化を複眼的に理解するキーワードたり得ないという教育研究上の認識から「比較」の語を取り除いたこと、また国際語としての英語の実践的な運用能力を従来以上に重視した教育課程を強調すること、の意味合いから「英語」の語を冠した。

「ヨーロッパ文化学科」の呼称は、従来の「ヨーロッパ比較文化学科」の学科名を改めたものである。「英語英米文化学科」の場合と同様に、グローバル化が進む中で「比較」の語だけでは異文化を複眼的に理解するキーワードたり得ないという教育研究上の認識から「比較」の語を取り除いた。

「日本・東アジア文化学科」の呼称は、従来の「日本・東アジア比較文化学科」の学科名を改めたものである。上記の2学科同様、グローバル化が進む中で「比較」の語だけでは異文化を複眼的に理解するキーワードたり得ないという教育研究上の認識から「比較」の語を取り除いた。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

人文学部の教育課程は、総合科目、外国語科目、専門教育科目を通じてグローバルな視野、全人的教養、専門的知識と実践力を身につけることができるように編成されている。また3学科共通の場として「人文フィールドワーク入門」「人文学部合同プロジェクト」「比

較交流文化論」等の科目を置き、人文学部としての一体性と協調性を促進している。

(1) 英語英米文化学科

英語英米文化学科の場合は以下のような構成である。

- ・ 総合科目は「情報とコミュニケーション」「歴史と文化」「現代社会」「自然と環境」「心と体」「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の各分野からなり、専門教育科目だけでは得られない総合的視野と教養を身につけるために1年次から卒業までに修得すべき単位を分野別に定めている。
- ・ 外国語科目のうちの英語は、実践的な言語運用能力の習得のために、また専門教育の土台とするために1年次から2年次にかけて必修外国語として体系的に展開されている。また複眼的な視野を与えるために、ドイツ語・フランス語・スペイン語を1・2年次の選択外国語として課している。
- ・ 専門科目については、まず初年次に必修の基礎ゼミナールを配し、また英会話等の実習授業の履修も開始できるようにしている。より高次の専門科目は言語／文学・芸術／思想・歴史・社会／比較・交流文化の諸分野にわたって講義、演習に分けて展開しており、卒業条件は3つのコース（英米・英語圏文化、英語コミュニケーション、比較・交流文化）に分けて定めている。ただし、いずれのコースにおいてもコミュニケーション・ゼミナールの履修を義務づけ、発信型の英語運用能力を伸ばす教育課程を編成している。
- ・ 演習（ゼミナール）を1年次から必修にし、指導教授による緊密な履修指導、大学生生活指導と結びつけている。
- ・ 4年次に卒業論文を履修するための条件を設定し、積み上げ式の学修が成り立つようにしている。その条件は1年次・2年次必修科目の単位修得、1年次・2年次外国語科目のうちの一定数の単位修得、3年次までに修得が期待される総単位数の3要素をもって定めている。
- ・ 専攻分野やコース所属の枠組みを超えて多様な専門領域に接することができるように共通専門科目を設け、多元的な学びを可能にしている。
- ・ 通常の必修科目や選択科目以外に任意選択単位を定め、学生が意欲的に履修した専攻科目を卒業単位数に算入できるようにしている。
- ・ 教職課程科目を専門教育科目のなかに組み込み、教員免許状（中学の英語科・社会科、高校の英語科・地理歴史科）の取得を促進している。学芸員課程科目も専門教育と結びつけている。
- ・ 4年次に卒論を必修とし、学業の集大成と位置づけている。そのために4年次のみならず3年次にも専用ゼミ（準備ゼミナール）を設け、学生の細かなニーズに対応できるような態勢を整えている。

(2) ヨーロッパ文化学科

ヨーロッパ文化学科の場合は以下のような構成である。

- ・ 総合科目は「情報とコミュニケーション」「歴史と文化」「現代社会」「自然と環境」「心と体」「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の各分野からなり、専門教育科目だけでは得られない総合的視野と教養を身につけるために1年次から卒業までに修得すべき単位を分野別に定めている。
- ・ 外国語科目のうちの英語は、実践的な言語運用能力の習得のために、1年次に必修としている。さらに選択外国語Ⅰとしてドイツ語・フランス語のいずれかを1年次から2年次にかけて体系的に展開し、ヨーロッパ文化についての専門教育に備えている。また複眼的な視野を与えるために、2年次では選択外国語Ⅱとして、英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語の中から1つを選び履修することを義務づけている。
- ・ 専門科目については、まず初年次に必修の入門講座、基礎ゼミナールを配している。専攻基礎科目としては、2年次以降に履修させるために、ドイツ語やフランス語の会話、読解、論述の力を伸ばす実習および中級ゼミナールを置いている。より高次の専門科目は言語と文学／芸術と生活／歴史と思想／現代社会・地域研究／比較と交流の5分野にわたって講義、専門ゼミナールに分けて展開している。
- ・ 演習を1年次から必修にし、指導教授による緊密な履修指導、大学生生活指導と結びつけている。
- ・ 4年次に卒業論文を履修するための条件を設定し、積み上げ式の学修が成り立つようにしている。その条件は1年次・2年次必修科目の単位修得、1年次・2年次外国語科目のうちの一定数の単位修得、3年次までに修得が期待される総単位数の3要素をもって定めている。
- ・ 専攻分野やコース所属の枠組みを超えて多様な専門領域に接することができるように共通専門科目を設け、また多元的な学びを可能にしている。
- ・ 通常の必修科目や選択科目以外に任意選択単位を定め、学生が意欲的に履修した専攻科目を卒業単位に算入できるようにしている。
- ・ 教職課程科目を専門教育科目のなかに組み込み、教員免許状（中学の英語科・ドイツ語科・フランス語科・社会科、高校の英語科・ドイツ語科・フランス語科・地理歴史科）の取得を促進している。学芸員課程科目も専門教育と結びついている。
- ・ 4年次に卒論を必修とし、学業の集大成と位置づけている。そのために4年次のみならず3年次後期にも専用ゼミ（準備ゼミナール）を設け、学生の細かなニーズに対応できるような態勢を整えている。

(3) 日本・東アジア文化学科

日本・東アジア文化学科の場合は以下のような構成である。

- ・ 総合科目は「情報とコミュニケーション」「歴史と文化」「現代社会」「自然と環境」「心と体」「ライフマネジメントとキャリアデザイン」「ライセンス科目」の各分野からなり、専門教育科目だけでは得られない総合的視野と教養を身につけるために1年次から卒業までに修得すべき単位を分野別に定めている。
- ・ 外国語科目のうちの英語は、実践的な言語運用能力の習得のために、1年次に必修としている。さらに複眼的な視野を与えるために、1年次に第2外国語として中国語・韓国朝鮮語・ドイツ語・フランス語の4か国語から1つを選択させる形で、また2年次には英語・中国語・韓国朝鮮語・ドイツ語・フランス語のなかから1つを選択させる形で履修を課している。
- ・ 専門科目については、まず初年次に必修の基礎ゼミナール、リレー講義（「日本文化と東アジア」）を配している。そして「専門スキル科目」を置き、専攻の基礎となるスキルの習得や語学の熟達を促している。より高次の専門科目である「専攻専門科目」は、①ことば・文学・思想／②芸術・身体・環境／③歴史・民俗・宗教の3分野にわたって講義、演習に分けて展開している。
- ・ 演習を1年次から必修にし、指導教授による緊密な履修指導、大学生生活指導と結びつけている。
- ・ 4年次に卒業論文を履修するための条件を設定し、積み上げ式の学修が成り立つようにしている。その条件は1年次・2年次必修科目の単位修得、1年次・2年次外国語科目のうち一定数の単位修得、3年次までに修得が期待される総単位数の3要素をもって定めている。
- ・ 専攻分野やコース所属の枠組みを超えて多様な専門領域に接することができるように共通専門科目を設け、多元的な学びを可能にしている。
- ・ 教職課程科目を専門教育科目のなかに組み込み、教員免許状（中学の国語科・社会科、高校の国語科・地理歴史科・公民科）の取得を促進している。学芸員課程科目も専門教育と結びついている。
- ・ 4年次に卒論を必修とし、学業の集大成と位置づけている。そのために4年次のみならず3年次に専用ゼミ（準備ゼミナール）を設け、学生の細かなニーズに対応できるような態勢を整えている。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

人文学部は、広く深い教養、様々な地域における言語・文学・歴史・民俗・思想・芸術等の分野に関する専門的知識、さらに各地域言語の高度な運用能力が身につく教育を目指している。したがって、専任教員は各専門分野に研究業績を有することはもちろんのこと、

日本文化関係を除く大半の専任教員がさまざまな地域の言語を習得し、外国語教育にも携わっており、異文化理解の基礎に言語習得を置き、文化研究と外国語教育を一体化する考え方が教員編成の基本方針となっている。また総合的教養教育を旨とする立場から、特定の分野に偏ることなく文化の様々な分野に専任教員を配するのみならず、自然科学、身体運動学、教育学（教職課程）の分野にも副専攻を設け、専任教員を配しているが、人文学というリベラルアーツ系の学問を核としているので、実務経験を重視した人事は行っていない。

平成22年4月現在、人文学部全体で専任教員は48名を数える。内訳は、教授37（特任教授5名を含む）、准教授7、専任講師3、助教1である。学科別では、英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科各々13名ずつで、3学科には分属しない基礎・教職部門9名で構成されている。年齢構成は、60歳代—10名、50歳代—16名、40歳代—15名、30歳代—6名、20歳代—1名である。教授会の構成員として、65歳以上の特任教授（定年後1年ごとに契約更新し、70歳まで可）と助教は除かれる。

専任教員は週5コマないし6コマ（外国語1コマを超コマ）を担当する。管理運営の役職者については、役職に応じて減コマされる。なお専任教員の研究活動を担保するため、特別研究員制度が設けられている。個々の専任教員にとって1年間の国外、国内における研修が、およそ7年程度の周期でめぐってくるため、研究に専念できる貴重な期間となっており、毎年4名程に特別研究員の資格が与えられる。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

人文学部の教育課程は、総合科目、外国語科目、専門教育科目を通じてグローバルな視野、全人的教養、専門的知識と実践力を身につけることができるように編成されているが、特に総合科目、外国語科目、専門科目を通じて、学生が自ら調べ自ら考えることに主眼を置いた実践的な教育方法を採用している。

総合科目においては、「ライセンス科目」以外の「情報とコミュニケーション」「歴史と文化」「現代社会」「自然と環境」「心と体」「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の諸分野は、それぞれ「講義」科目と「実践」科目に分かれているが、人文学部では各分野の「実践」科目1単位の取得を履修の条件としている。

外国語科目では、全学的な1、2年次生にTOEIC IPの試験を実施し、到達度別英語クラスを編成し、各自の英語力の向上を目指している。また多様な外国語を現地におもむき習得するため、各学科には短期・長期の留学が奨励されている。

専門科目としては、1年次の基礎ゼミナールから2、3年次の専門ゼミ（専門演習）へ進み、学びの集大成としての卒論論文作成のため、準備ゼミナール、卒論ゼミナールできめ細かく卒論指導にあたるという一貫したゼミを通じた指導体制が構築されている。さら

にゼミナールでは、文献研究だけでなく、現地実習やフィールドワークを重視することを奨励し、3学科共同で運営する「人文フィールドワーク入門」も新たに付け加えられた。

卒業要件は124単位以上を修得することである。うち総合科目20単位以上、外国語科目については、英語英米文化学科14単位以上、ヨーロッパ文化学科18単位以上、日本・東アジア文化学科12単位以上である。専門科目は、共通専門科目と専攻専門科目に分かれ、英語英米学科については、共通専門科目20単位以上、専攻科目は70単位以上であり、ヨーロッパ文化学科については、共通専門科目20単位以上、専攻科目66単位以上であり、日本・東アジア文化学科については、共通専門科目24単位以上、専攻科目68単位以上である。専攻科目は、さらに専攻基礎科目と専攻専門科目に分かれる。英語英米文化学科の場合、専攻基礎科目中の必修科目としては基礎ゼミナール、英語ワークショップ、コミュニケーション・ゼミナールの計10単位、専攻専門科目中の必修科目としては卒業論文・英文エッセイ、卒業論文ゼミナールの計8単位がある。ヨーロッパ文化学科の場合、専攻基礎科目中の必修科目としては入門講座、基礎ゼミナール、中級ゼミナールの計14単位、専攻専門科目中の必修科目としては卒業論文、卒業論文ゼミナールの計8単位がある。日本・東アジア文化学科の場合、専攻基礎科目中の必修科目としては基礎ゼミナール、リレー講義「日本と東アジア」の計8単位、専攻専門科目中の必修科目としては卒業論文、卒業論文ゼミナールの計8単位がある。

なお履修科目の年間登録上限は48単位である。

別添資料1―「人文学部3学科の卒業条件表」

別添資料2―「履修モデル」

別添資料3―「専任教員シラバス」(別記様式第2号の後に添付)

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

練馬区にある武蔵大学キャンパスは、中庭には大ケヤキがそびえ、都心からほど近い立地にも関わらず、武蔵野の面影を色濃く残す自然に恵まれている。キャンパス内には小川も流れ、四季の移り変わりを肌で感じながら、学びの日々を送ることができる落ち着いた環境を提供している。

専用の校地面積は96,191,93 m²、内訳は、校舎敷地は30,625,55 m²、運動場用地は64,033,83 m²、その他施設等1,532,55 m²である。運動場用地は練馬キャンパスとは別の埼玉県朝霞市に広大なグラウンドがある。移動手段は直通バスで所要時間は50分程度である。授業ではテニス以外に使用されておらず、主に体育館(2,028,69 m²)が使用されている。他に室内プール、武道場2面、トレーニング場を備えている。郊外の大学に比べると都内にあるた

め十分とはいえないが、校舎敷地には学生の休息の場や空地も確保されている。

(b) 校舎等施設の整備計画

人文学部専任教員の個人研究室は完備されている。教室は、大学全体で講義室 43、演習室 40、実験実習室 18、情報処理学習施設 12 室、語学学習施設 2 室等があり、これらを有効に活用することによって、教育課程に支障をきたすことなく時間割の運営が行われている。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

大学図書館（3 階建て）は延床面積 6,095,40 m²、閲覧座席数 480 席、現在の蔵書数は約 65 万冊である。うち人文学関係の図書は 198,405 冊（外国書は 62,015 冊）、学術雑誌 593（外国雑誌 133）である。3 F の一角には視聴覚資料（AV コーナー）を設けて、現在 98 点を置き、予習・復習の便に供している。デジタルデータベースについては、BOOKPLUS、CiNii、日経テレコン 21 等、現在合計 27 件のオンラインデータベースが利用可能である。なお、2009 年度の図書の増加冊数は、8,758 冊（和書 7,159、外国書 1,599）であり、今後ともほぼ同数の年間購入冊数が見込まれる。

学生の学習・研究をバックアップするために、自宅からも図書検索ができるようにしている。また図書館の利用方法や資料の探し方、他の図書館の資料利用などで困らないため、レファレンス・カウンターを充実させ、「履修図書コーナー」には授業で使うテキストや参考書が、「レポート・卒論の書き方コーナー」には卒論やレポートを作成するときに役立つ資料が、「就職・キャリアコーナー」にはキャリア形成に役立つ資料をそろえ、さまざまなかたちで学生を支援している。さらに図書館を拠点とした知のネットワークを拡大・充実する目的から武蔵大学・学習院大学・成蹊大学・成城大学の 4 つの大学図書館を相互に自由に利用できる制度があり、館外貸出しも可能である。その他国立国会図書館はじめ、都立、練馬区立など外部の図書館の蔵書を横断検索することもできるようにしている。

ク 入学者選抜の概要

人文学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

人文学部全体および入学希望学科の人材養成の目的と教育内容をよく理解し、これを学ぼうとする意欲と、そのために必要な国語・英語（外国語）、その他の教科の基礎学力を身につけていることが入学者受入の基本的条件である。人文学部は、世界のさまざまな文化を国際的視野と比較の視点をもって研究する学部である。文化はそれぞれの地域の風土や歴史に根ざし、言語によって支えられているから、対象地域の言語を積極的に学び、留学や海外研修によって異文化環境のなかで行動する力を身につけ、将来、日常生活や職業生活において国際交流の担い手になりたい人、文化的知識を社会生活に役立てたい人を求め

ている。なお人文学部の教育は、1年次の基礎ゼミナールから4年次の卒業論文指導まで、演習（ゼミ）と対話型の指導を中心としており、学生が自ら主体的に知の世界を切り開くことを前提としているから、研究の課題を自ら発見し、他の人と議論しながら深めることを好む知的探究心に満ちた人を歓迎する。

学科ごとのアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

(1) 英語英米文化学科

勉学に取り組む真剣な態度としっかりした基礎的学力を備え、言語・文学・歴史・思想・芸術・宗教・生活文化・現代社会などの分野に関心があり、イギリス・アメリカを初めとする英語圏の文化および文化比較に興味をもつ人を広く受け入れる。英語の学習に意欲があり、国際的なコミュニケーション力を身につけたいと願う人が望ましい。英語英米文化学科には多様な入学者選抜の方式があるが、すべてこの基本方針に沿っている。なおAO入試では、授業に参加して内容を理解する力が重視される。

(2) ヨーロッパ文化学科

真剣に勉学に取り組む姿勢と基礎的な学力を備え、言語・文学・歴史・思想・芸術・宗教・生活文化・現代社会などの分野に関心があり、ヨーロッパ世界の文化および文化の比較・交流に興味をもつ人を広く受け入れる。英語だけでなくドイツ語やフランス語の学習に意欲があり、国際的な対話能力を身につけたいと願う人が望ましい。ヨーロッパ文化学科には多様な入学者選抜の方式があるが、すべてこの基本方針に沿っている。なおAO入試では、特定の課題について調べ、発表する力が重視される。

(3) 日本・東アジア文化学科

基礎的な学力と学習意欲をもち、言語・文学・歴史・思想・芸術・宗教・生活文化・現代社会などの分野に関心があり、日本文化を深く学びたいと願う人、また中国・韓国の文化と文化の比較・交流に興味をもつ人を広く受け入れる。東アジアの言語や英語その他の学習にも意欲があり、国際的な文化交流の体験を希望する人を歓迎する。日本・東アジア文化学科には多様な入学者選抜の方式があるが、それらはいずれもこの基本方針に沿っている。AO入試では特定の課題について調べ、発表する力が重視される。

入試選抜の方式としては、現在、①推薦入学（指定校制）②一般方式入試③センター方式入試④帰国生徒対象入試⑤社会人入試⑥AO入試⑦外国人学生特別入試（日本・東アジア文化学科のみ）⑧編入学・転入学・学士入学試験などがある。

推薦入試と一般入試の募集定員の割合は、推薦20名に対して一般（センター方式を含む）80名である。④から⑧までは若干名の募集となり、⑧の編入学・転入学について重視しておらず、目下募集してしない。学士入学について、現在1学科のみ募集している。

⑤社会人入試の出願資格者は、満23歳以上で一定の社会経験を有し、5年以上前に高等学校を卒業した者、あるいは定時制、通信制の高等学校の卒業見込み者、もしくは高等学校卒業程度認定試験合格者、または合格見込み者である。

⑦外国人学生特別入試は、現在1学科のみで行われているが、中国・韓国からの私費留

学生を積極的に受け入れ、国際交流を促進しようとする目的から設けられた将来性をもつ入試方式である。入学者は日本人学生同様の授業を履修しなければならない、一定程度の日本語能力を入学時に必要としている。ゆえに、出願資格として日本語能力を証明するため、次の1、2のうち、いずれか1つの条件を満たしていることを求めている。

- 1 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」を受験していること。
- 2 財団法人・日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」1級を取得していること。

外国人学生の選抜は、一次選考（書類審査）と二次選考（筆記試験と面接）の2段階を通じて行われる。二次選考の筆記試験では、日本語による小論文と聞き取り、英語による基礎的な作文問題が出題される。

科目等履修生については、所定の手続きに基づいて志願され、教授会の議を経て選考のうえ入学が認められるが、外国語科目、演習・ゼミナール科目、実技科目、実験科目は除かれる。4単位当たり年間授業料の10分の1が科目等履修料の額に相当する。毎年度30名近くが科目等履修生として在学している。

聴講生については、すでにイの⑥地域の生涯学習機会の拠点に関する個所で記したように、練馬区武蔵大学特別聴講生制度を設け、毎年度40名近くの地域住民を受け入れている。

ケ 資格取得を目的とする場合

人文学部で取得可能な資格を学科ごとに表にすると以下のとおりである。

(1) 英語英米文化学科

①中学校教諭一種免許状	科目一英語・社会
②高等学校教諭一種免許状	科目一英語・地理歴史・※公民
③学芸員資格	

①・②については、国家資格、資格取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、教職関連科目の履修が必要。※公民については、取り下げの予定。

③については、国家資格、取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、学芸員関連科目の履修が必要。

(2) ヨーロッパ文化学科

①中学校教諭一種免許状	科目一英語・ドイツ語・フランス語・社会
②高等学校教諭一種免許状	科目一英語・ドイツ語・フランス語・地理歴史
③学芸員資格	

①・②については、国家資格、資格取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、

教職関連科目の履修が必要。

③については、国家資格、取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、学芸員関連科目の履修が必要。

(3) 日本・東アジア文化学科

①中学校教諭一種免許状	科目—国語・社会
②高等学校教諭一種免許状	科目—国語・地理歴史・※公民
③学芸員資格	

①・②については、国家資格、資格取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、教職関連科目の履修が必要。※公民については、認定申請の予定。

③については、国家資格、取得可能、ただし卒業要件単位に含まれる科目の他に、学芸員関連科目の履修が必要。

コ 実習の具体的計画

特に所定の実習先を定めておらず、実習の授業担当者の裁量で実習先が決められる。大学へは学外出張願を提出（参加学生名簿添付）し、許可を得る形を取る。学外での実習を奨励する目的で学外調査・見学援助金、フィールドワーク援助金等の助成制度がある。国外での調査・見学については、国外フィールドトリップ援助金の制度もある。

サ 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合は、その具体的計画

人文学部では、様々な地域の言語の運用能力を向上させ、また異文化理解を深めて複眼的な視点を身につけるために、短期または長期の国外留学を推奨している。短期語学留学は、夏季および春季休暇中に3週間～4週間海外の協定校で実施され、プログラムを終了すれば卒業単位として認められる。協定校は、アメリカのセント・マイケルズ大学、オハイオ大学、ドイツのハレ・ヴィッテンベルク大学、カール・デュースベルク・ツェントレン（CDC）ベルリン校、フランスのトゥール大学認定トゥーレーヌ学院、中国の西安外国語大学、韓国の高麗大学、オーストラリアのディーキン大学等である。最近5カ年の人文学部の短期語学参加者数は以下のとおりである。なお、短期語学留学は、外国語科目の「英語現地実習」「ドイツ語現地実習」「フランス語現地実習」「中国語現地実習」「韓国・朝鮮語現地実習」として単位認定される。

※短期語学留学参加数一覧(平成 17 年度～平成 21 年度)					
国 名	H17	H18	H19	H20	H21
アメリカ	17	10	11	8	6
オーストラリア	-	-	22	11	7
ドイツ	17	11	8	12	7
フランス	12	16	16	6	12
韓国	0	5	4	7	4
中国	2	6	2	3	11
計(参加者)	48	48	63	47	47

また企業実習については、総合科目の「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の実践科目として、前期と後期に「インターンシップ」を置いて全学的な取り組みを行っている。

シ 昼夜開講制を実施する場合は、その具体的計画

本学部には該当しない。

ス 編入学定員を設定する場合は、その具体的計画

編入学定員を設定していない。編入学・転入学試験制度はあるが、現在募集していない。これから先、編入学・転入学試験を実施する計画はない。

セ 2つ以上の校地において教育を行う場合

本学部には該当しない。

ソ 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所で開催する場合

本学部には該当しない。

タ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

本学部には該当しない。

チ 通信教育を実施する場合

本学部には該当しない。

ツ 管理運営

学則に基づき本学部に教授会が置かれ、本学部教授会規程にしたがって運営されている。学部教授会は、本学部の専任専従の教授、准教授、および講師をもって構成されている。学部長がこれを招集し、通常は木曜日の午後3時以降、年間15回程度開かれる。なお必要な場合は、臨時教授会が開かれる。

学部教授会は、その構成員の5分の3以上の出席によって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。重要議題の場合は、構成員の3分の2以上をもって決する。

学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 人事に関する事項
- (2) 学部の諸規定に関する事項
- (3) 教務に関する事項
- (4) 学術研究に関する事項
- (5) 入学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
- (6) 学生の指導、厚生及び賞罰に関する事項
- (7) その他学部の運営上必要な事項

学部教授会の下部組織として、委員会が置かれている。学部関係の主なものとして、教務委員会（教務に関する事項）、研究委員会（学術研究に関する事項）、学部委員会（学部の将来計画、教授会の議題調整などが主な内容）、その他小さな委員会が20近く置かれている。教学上に関わる教授会の議題は、教務委員会で審議された議題、報告された議題に基づいて行われる。大学全体に関わる教学上の問題を審議する組織としては教務部委員会があり、学部間の調整が行われている。

学部関係以外に、全学的な委員会として入試委員会、広報委員会、外国語教育センター委員会、教職課程委員会、学芸員課程委員会をはじめ各種委員会があり、定期的、不定期的に開かれている。学部教授会でその内容は報告される。

大学全体の管理運営に関わる問題は、学長のもと、3学部長、教務部長を中心に構成された大学協議会で協議され、その内容は教授会で報告される。

テ 自己点検・評価

本学では学則第1条の2第2項の規定に基づき、自己点検・評価委員会の組織と運営に関する事項を定めている。

委員会は、学長を委員長とし、学部長、大学院研究科委員長、教務部長、学生支援センター長、大学図書館長、外国語教育センター長、情報・メディア教育センター長、総合研究所長、教務委員長、入試委員長、基礎教育センター長、国際センター長、大学事務部長、財務部長、企画運営部長等の各部局の長を委員として組織されている。委員会は全学にかかわる次の事項について自己点検・評価を行う。

- (1) 教育理念、教育目的等に関すること。
- (2) 教育活動に関すること。
- (3) 研究活動に関すること。
- (4) 社会活動に関すること。
- (5) 学生の受入れ及び卒業生に関すること。
- (6) 学生生活及び就職に関すること。
- (7) 教員組織及び事務組織に関すること。
- (8) 図書・学術情報並びに情報処理に関すること。
- (9) 国際交流に関すること。
- (10) 大学広報に関すること。
- (11) 施設・設備に関すること。
- (12) 大学財政に関すること。
- (13) 大学の管理・運営に関すること。
- (14) その他委員会が必要と認める事項

以上の自己点検・評価結果について、委員会は報告書を作成し、公表するように努めている。各部局は原則として学長宛の年度ごとの報告を行っているが、大学全体としては平成19年4月の報告書が大学基準協会の認証評価を受けた最新のものであり、認証評価結果ともども大学ホームページで公表されている。

ト 情報の提供

本学では、「武蔵大学人材養成の目的等に関する基本方針」（平成20年11月18日制定）の形で大学のホームページを通じて広く公表している。その内容は、建学の精神と人材養成の目的、アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の基本方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の基本方針）であるが、ここに学部の理念・目的が集約されている。カリキュラム、シラバス、大学のデータ、自己点検報告書、専任教員のプロフィール及び研究成果や教育活動などは、大学のホームペ

ージを通じてみる事が可能である。

他に大学に関する全体的な情報を提供する大学案内として「Musashi Magazine」があり、大学の広報活動の主力を担う冊子として毎年編集、作成されている。また受験生に必要な入試に関する情報は、「入試ガイド」「入試要項」の小冊子類、および大学のホームページで開示している。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

大学では、大学設置基準第 25 条の 3 に基づき、教員の専門能力の組織的開発を促進するため、全学的組織としてファカルティ・ディベロップメント委員会（FD委員会）を置いている。FD委員会は、次の各号に掲げる事項についての基本方針を審議・決定する。

- (1) 教育活動の組織的改善に関する事項
- (2) 教員の教育活動に関わる専門能力向上のための研修計画立案・実施・分析に関する事項
- (3) 学生による授業評価アンケートの企画・実施・分析に関する事項
- (4) その他、前条の目的を達成するために必要な事項

学生による授業評価は毎年、FD委員会が作成した個別授業に関するアンケートを通じて実施されている。その結果は年度末に各教員に知らせられ、授業の改善に供せられている。またその学部ごとの総括的な報告書は、毎年「授業評価アンケート報告書」としてまとめられている。

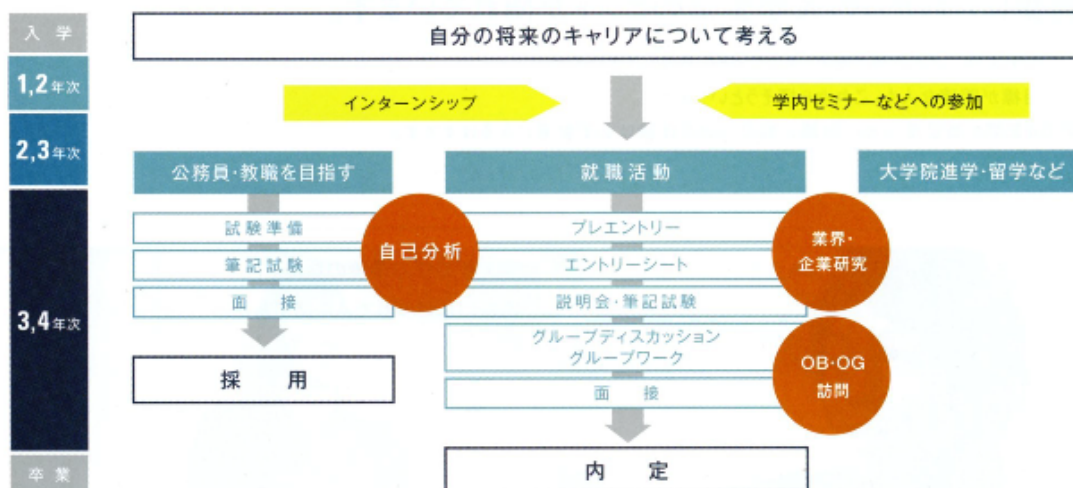
ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

学生一人ひとりが入学時より自分の将来のキャリアについて考えるためには、1年次から積極的に参加できるキャリア支援講座を設け、学生に参加を呼びかけている。1・2年次主体の学内公務員試験対策講座、一般教養レベルアップ講座などを開いている。また新しい総合科目には、「ライフマネジメントとキャリアデザイン」の分野を置き、1・2年次に講義を通じて自分の人生や働くことの意味について考えてもらい、3年次にはインターンシップなどの実習科目を通じて、実際の就労体験、企業体験を行ってもらうというキャリア支援がカリキュラムの中に組み入れられている。

キャリア支援課による学生一人ひとりに対するきめ細かな就職サポートのほか、大学で学んだことが就職にどう役立つのかを学生に実感できるしくみとして、「学部横断型課題解決プロジェクト」という科目も設置している。この授業内容については、すでに「**イ 学部、学科等の特色**」の該当個所で記したように、文部科学省の平成 21 年度「大学教育学生支援推進事業（教育GP）」に採択されたものであるが、大学の学びと就職を橋渡しするしくみとして今後ますます積極的に推進すべきキャリア支援の授業である。

その他、多くのキャリア支援プログラムが用意され、学生の就職活動に向けた自己分析と社会人基礎力向上のための準備体制が整えられている。3年次以降は、より実践的な業界・企業研究の支援プログラムが数多く組み込まれている。またOB・OGによる体験講座を設けて、卒業生との連携を強めていくことで就職活動への前向きな姿勢を促している。

■ 進路決定までの流れ



英語英米文化学科卒業条件（カリキュラムH23）

区分	修得すべき 単位数	内訳			
総合科目	20 単位	6 分野（A～F）からセクションを問わず最低 2 単位を修得し（計 12 単位）、かつ分野を問わずさらに 8 単位以上修得し、かつ分野を問わず実践セクションの科目を必ず 1 科目（1 単位）以上含むこと。			
外国語科目	14 単位	必修外国語（英語）	8 単位		
		選択外国語Ⅰ（学科指定） ドイツ語、フランス語、スペイン語	6 単位		
		選択外国語Ⅱ（自由選択） 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国・朝鮮語	—		
専門科目	共通専門科目	20 単位	20 単位		
	専攻科目	70 単位	専攻基礎科目 12 単位	英語英米文化基礎ゼミナール 1	2 単位
				英語英米文化基礎ゼミナール 2	2 単位
			必修科目	英語ワークショップ 1	1 単位
				英語ワークショップ 2	1 単位
				コミュニケーション・ゼミナール 1	2 単位
専攻専門科目 52 単位	必修科目	卒業論文・英文エッセイ	4 単位		
		卒業論文ゼミナール 1	2 単位		
		卒業論文ゼミナール 2	2 単位		
		選択科目（実習）	2 単位		
		選択科目（講義・ゼミナール）	44 単位		
		専攻科目任意選択単位（選択科目である実習・講義・ゼミナールより任意に選択） 6 単位			
合計	124 単位				

ヨーロッパ文化学科卒業条件（カリキュラムH23）

区分	修得すべき 単位数	内訳		
総合科目	20 単位	6 分野（A～F）からセクションを問わず最低 2 単位を修得し（計 12 単位）、かつ分野を問わずさらに 8 単位以上修得し、かつ分野を問わず実践セクションの科目を必ず 1 科目（1 単位）以上含むこと。		
外国語科目	18 単位	必修外国語：英語 2 単位	選択外国語 I（学科指定） （1）ドイツ語，フランス語 12 単位 （2）英語，ドイツ語，フランス語，イタリア語 4 単位 選択外国語 II（自由選択） （英語，ドイツ語，フランス語，イタリア語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） —	
専門科目	共通専門科目	20 単位		
	専攻科目	20 単位	専攻基礎科目 20 単位	ヨーロッパ文化入門講座 2 単位 ヨーロッパ文化基礎ゼミナール 1 2 単位 ヨーロッパ文化基礎ゼミナール 2 2 単位 中級ゼミナール A1 2 単位 中級ゼミナール A2 2 単位 中級ゼミナール B1 2 単位 中級ゼミナール B2 2 単位 選択科目（実習） 6 単位
			専攻専門科目 42 単位	必修科目 卒業論文ゼミナール 1 2 単位 卒業論文ゼミナール 2 2 単位 卒業論文 4 単位 選択科目 専門ゼミナール 1 4 単位 専門ゼミナール 2 4 単位 講義①～⑤・ゼミナール 26 単位
			専攻科目 任意選択単位 4 単位	専攻基礎・選択科目および専攻専門・選択科目より任意に科目を選択
			合計	124 単位

日本・東アジア文化学科卒業条件（カリキュラムH23）

区分	修得すべき単位数	内 訳																												
総合科目	20 単位	6 分野（A～F）からセクションを問わず最低 2 単位を修得し（計 12 単位）、かつ分野を問わずさらに 8 単位以上修得し、かつ分野を問わず実践セクションの科目を必ず 1 科目（1 単位）以上含むこと。																												
外国語科目 ①	12 単位	必修外国語（英語） 2 単位																												
		選択外国語 I（1）（学科指定） （ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語） 4 単位																												
		選択外国語 I（2）（学科指定） （英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語） 4 単位																												
		選択外国語 II（自由選択） （英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国・朝鮮語、日本語） 2 単位																												
専門科目	共通専門科目	24 単位	24 単位																											
	専攻科目	68 単位	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">専攻基礎科目 8 単位</td> <td rowspan="4">必修科目 ②</td> <td>日本・東アジア文化基礎ゼミナール 1</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>日本・東アジア文化基礎ゼミナール 2</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>日本文化と東アジア 1</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>日本文化と東アジア 2</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">専攻専門科目 60 単位</td> <td rowspan="3">必修科目 ③</td> <td>卒業論文</td> <td>4 単位</td> </tr> <tr> <td>卒業論文ゼミナール 1</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>卒業論文ゼミナール 2</td> <td>2 単位</td> </tr> <tr> <td>専門スキル科目</td> <td>8 単位以上 ④</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">選択科目</td> <td>専門科目（講義） 3 分野すべてから</td> <td>28 単位以上 ⑤</td> <td>52 単位</td> </tr> <tr> <td>専門科目（演習） 2 分野以上から</td> <td>16 単位以上 ⑥</td> <td></td> </tr> </table>	専攻基礎科目 8 単位	必修科目 ②	日本・東アジア文化基礎ゼミナール 1	2 単位	日本・東アジア文化基礎ゼミナール 2	2 単位	日本文化と東アジア 1	2 単位	日本文化と東アジア 2	2 単位	専攻専門科目 60 単位	必修科目 ③	卒業論文	4 単位	卒業論文ゼミナール 1	2 単位	卒業論文ゼミナール 2	2 単位	専門スキル科目	8 単位以上 ④		選択科目	専門科目（講義） 3 分野すべてから	28 単位以上 ⑤	52 単位	専門科目（演習） 2 分野以上から	16 単位以上 ⑥
専攻基礎科目 8 単位	必修科目 ②	日本・東アジア文化基礎ゼミナール 1	2 単位																											
		日本・東アジア文化基礎ゼミナール 2	2 単位																											
		日本文化と東アジア 1	2 単位																											
		日本文化と東アジア 2	2 単位																											
専攻専門科目 60 単位	必修科目 ③	卒業論文	4 単位																											
		卒業論文ゼミナール 1	2 単位																											
		卒業論文ゼミナール 2	2 単位																											
	専門スキル科目	8 単位以上 ④																												
	選択科目	専門科目（講義） 3 分野すべてから	28 単位以上 ⑤	52 単位																										
		専門科目（演習） 2 分野以上から	16 単位以上 ⑥																											
合 計	124 単位																													

※ 外国語科目の選択外国語は合計 8 単位まで総合科目に算入することができる。

英語英米文化学科

(1) 英米・英語圏文化コース: 英語力を活かして国際的な事業や団体に貢献できる人材を育てる。

セメスター	総合科目	外国語科目	専門科目	合計単位数
1 年次 前期	情報技術と人間社会	英語	英語ワークショップ1	18
	武蔵・環境フィールドワーク	選択外国語 I (仏語)	英語英米文化基礎ゼミナール1	
	心理学ワークショップ		英会話初級1	
			アメリカ文学史1	
			イギリス文化論1	
	小計	小計	小計	
1 年次 後期	アカデミック・ディベート	英語	英語ワークショップ2	18
	世界の言語と文化	選択外国語 I (仏語)	英語英米文化基礎ゼミナール2	
	キャリアデザイン論A		英会話初級2	
			アメリカ文学史2	
			イギリス文化論2	
	小計	小計	小計	
2 年次 前期	現代社会と法	英語	コミュニケーション・ゼミナール1	23
		選択外国語 I (仏語)	英会話中級1	
			アメリカ史1	
			アメリカ文化論1	
			英米の社会1	
			英語圏文化ゼミナール1	
			アメリカ経済1	
			アカデミック・イングリッシュ1	
			アメリカの社会と文化1	
			ヨーロッパ統合論	
	小計	小計	小計	
2 年次 後期	キャリアデザイン演習	英語	コミュニケーション・ゼミナール2	23
		選択外国語 I (仏語)	英会話中級2	
		英語現地実習2	アメリカ史2	
			アメリカ文化論2	
			英米の社会2	
			英語圏文化ゼミナール2	
			アメリカ経済2	
			アカデミック・イングリッシュ2	
			アメリカの社会と文化2	
		小計	小計	
3 年次 前期	インターンシップA		リミディアル・イングリッシュ1	17
			英語と文化1	
			英語圏社会文化史1	
			英米文化特講1	
			英語圏文化ゼミナール1	
			アメリカ史ゼミナール1	
			エスニシティの社会学	
			サービス・マネジメント	
	小計	小計	小計	
3 年次 後期			リミディアル・イングリッシュ2	17
			英語と文化2	
			英語圏社会文化史2	
			英米文化特講2	
			英語圏文化ゼミナール2	
			アメリカ史ゼミナール2	
			卒業論文準備ゼミナール	
			学部横断型課題解決プロジェクト	
			都市環境論	
	小計	小計	小計	
前期 4年			卒業論文ゼミナール1	2
	小計	小計	小計	
後期 4年			卒業論文ゼミナール2	6
			卒業論文	
		小計	小計	
	計	計	計	124

※外国語科目の「選択外国語 II」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「英語現地実習2」がそれに該当する。

英語英米文化学科

(2)英語コミュニケーションコース: 高度な英会話能力を習得し、海外との取り引きをおこなう部署で働く人材を育てる。

セメスター	総合科目	外国語科目	専門科目	合計単位数
1 年次 前期	他者理解とコミュニケーション	英語	英語ワークショップ1	17
	武蔵・環境フィールドワーク	選択外国語 I (独語)	英語英米文化基礎ゼミナール1	2
	スポーツ実践1 (バレー)		発音クリニック1	1
			英語学概論1	2
			英米思想史1	2
	小計	小計	小計	8
1 年次 後期	デジタル・協働学	英語	英語ワークショップ2	18
	グローバル時代の歴史認識	選択外国語 I (独語)	英語英米文化基礎ゼミナール2	2
	現代社会と人権		発音クリニック2	1
			英語学概論2	2
			英米思想史2	2
	小計	小計	小計	8
2 年次 前期	スポーツの歴史と文化	英語	コミュニケーション・ゼミナール1	22
		選択外国語 I (独語)	英作文中級1	1
			英米の芸術1	2
			異文化コミュニケーション論1	2
			第二言語習得論1	2
			イギリス文学ゼミナール1	2
			イギリスの社会と文化1	2
			世界経済1	2
			国際社会学	2
	小計	小計	小計	17
2 年次 後期	キャリアデザイン演習	英語	コミュニケーション・ゼミナール2	24
		選択外国語 I (独語)	英作文中級2	1
			英米の芸術2	2
			異文化コミュニケーション論2	2
			第二言語習得論2	2
			イギリス文学ゼミナール2	2
			イギリスの社会と文化2	2
			世界経済2	2
			ヨーロッパ形成史	2
		環境社会学	2	
	小計	小計	小計	19
3 年次 前期	インターンシップA		通訳翻訳実習1	17
			英訳聖書入門1	2
			英語音声学1	2
			英語圏の文学1	2
			アカデミック・プレゼンテーション・ゼミナール1	2
			アカデミック・ライティング・ゼミナール1	2
			現代世界の諸問題1	2
			エスニシティの社会学	2
	小計	小計	小計	15
3 年次 後期		インターネット・イングリッシュ	通訳翻訳実習2	17
			英訳聖書入門2	2
			英語音声学2	2
			英語圏の文学2	2
			アカデミック・プレゼンテーション・ゼミナール2	2
			アカデミック・ライティング・ゼミナール2	2
			卒業論文準備ゼミナール	2
			現代世界の諸問題2	2
	小計	小計	小計	15
前次年			卒業論文ゼミナール1	2
	小計	小計	小計	2
後次4 年		ブラクティカル・イングリッシュ1	卒業論文ゼミナール2	7
			卒業論文	4
	小計	小計	小計	6
	計	計	計	124

※外国語科目の「選択外国語Ⅱ」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「ブラクティカル・イングリッシュ1」「インターネット・イングリッシュ」がそれに該当する。

英語英米文化学科

(3)比較・交流文化コース:異文化間の関係についての知識を活かし、さまざまな分野で日本と海外の架け橋となる人材を育てる。

セメスター	総合科目	外国語科目	専門科目	合計単位数			
1 年次 前期	他者理解とコミュニケーション	2	英語	2	英語ワークショップ1	1	19
	多文化共生の現在	2	選択外国語 I (スペイン語)	2	英語英米文化基礎ゼミナール1	2	
	国際社会における紛争と協調	2	プラクティカルイングリッシュ1	1	アメリカ文化論1	2	
	スポーツ実践1(バレーボール)	1			観光文化論1	2	
	小計	7	小計	5	小計	7	
1 年次 後期	人間と環境	2	英語	2	英語ワークショップ2	1	17
	世界の言語と文化	2	選択外国語 I (スペイン語)	2	英語英米文化基礎ゼミナール2	2	
	キャリアデザイン論A	2			アメリカ文化論2	2	
	小計	6	小計	4	観光文化論2	2	
2 年次 前期	日本の伝統と文化	2	英語	2	コミュニケーション・ゼミナール1	2	22
	キャリアデザイン論B	2	選択外国語 I (スペイン語)	1	英会話中級1	1	
					比較宗教思想1	2	
					イギリス史ゼミナール1	2	
					日米比較交流文化史1	2	
					比較文明論1	2	
					比較交流文化論1	2	
	小計	4	小計	3	ヨーロッパ統合論	2	
2 年次 後期	キャリアデザイン演習	2	英語	2	コミュニケーション・ゼミナール2	2	18
			選択外国語 I (スペイン語)	1	英会話中級2	1	
					比較宗教思想2	2	
					イギリス史ゼミナール2	2	
					日米比較交流文化史2	2	
					比較文明論2	2	
	小計	2	小計	3	比較交流文化論2	2	
3 年次 前期					英語と文化1	2	20
					アメリカ史1	2	
					英語圏文化特講1	2	
					英米の社会1	2	
					比較・交流文化ゼミナール1	2	
					日英比較交流文化史ゼミナール1	2	
					イメージ文化論	2	
					テクノロジー文化論	2	
					比較芸術論1	2	
	小計	0	小計	0	芸術と文化の社会学	2	
3 年次 後期					英語と文化2	2	20
					アメリカ史2	2	
					英語圏文化特講2	2	
					英米の社会2	2	
					比較・交流文化ゼミナール2	2	
					日英比較交流文化史ゼミナール2	2	
					卒業論文準備ゼミナール	2	
					比較芸術論2	2	
					越境文化論	2	
	小計	0	小計	0	音響文化論	2	
4 年次 前期					卒業論文ゼミナール1	2	2
	小計	0	小計	0	小計	2	
後 期 4 年					卒業論文ゼミナール2	2	6
	小計	0	小計	0	卒業論文	4	
	計	19	計	15	計	90	124

※外国語科目の「選択外国語Ⅱ」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「プラクティカル・イングリッシュ1」がそれに該当する。

ヨーロッパ文化学科

(1)ドイツ語圏文化コース:ドイツ語圏の文化に精通し、ドイツ語力を活かして国際的に活躍できる人材を育てる。

セメスター	総合科目	外国語科目	専門科目	合計単位数
1 年次 前期	20世紀の世界	英語	ヨーロッパ文化入門講座	20
	武蔵・環境フィールドワーク	選択外国語 I (1)(ドイツ語)	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール1	
	心理学ワークショップ		ドイツ中世史	
	小計	小計	小計	
1 年次 後期	アカデミック・ディベート	英語	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール2	18
	世界の言語と文化	選択外国語 I (1)(ドイツ語)	ヨーロッパの神話と伝説2	
	キャリアデザイン論A		ヨーロッパ形成史	
	現代社会とジェンダー			
小計	小計	小計		
2 年次 前期	世界の名著	選択外国語 I (1)(ドイツ語)	中級ゼミナールA1	20
		選択外国語 I (2)(英語)	中級ゼミナールB1	
			初級ドイツ語作文1	
			初級ドイツ語会話1	
			ドイツ語LL	
			中欧文化論	
			ドイツ文学史1	
			英語と文化1	
小計	小計	小計		
2 年次 後期		選択外国語 I (1)(ドイツ語)	中級ゼミナールA2	22
		選択外国語 I (2)(英語)	中級ゼミナールB2	
		ドイツ語現地実習2	初級ドイツ語作文2	
			初級ドイツ語会話2	
			独検対策講座	
			ドイツ文学史2	
			ドイツ語圏の民俗文化	
			英語と文化2	
小計	小計	小計		
3 年次 前期	インターンシップA		専門ゼミナール(文学と文化)1	18
			専門ゼミナール(芸術と文化)1	
			ドイツ語圏の社会と文化1	
			ドイツ語学1	
			ドイツ語圏の芸術	
			キリスト教文化史	
			英米文学概論1	
			日本文化論1	
小計	小計	小計		
3 年次 後期			専門ゼミナール(文学と文化)2	18
			専門ゼミナール(芸術と文化)2	
			卒業論文準備ゼミナール	
			ドイツ語圏の社会と文化2	
			ドイツ語学2	
			英米文学概論2	
			日本文化論2	
			メディア文化論	
小計	小計	小計		
4 年次 前期			卒業論文ゼミナール1	2
小計	小計	小計		
4 年次 後期			卒業論文ゼミナール2	6
	小計	小計	卒業論文	
小計	小計	小計		
	計	計	計	124

※外国語科目の「選択外国語Ⅱ」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「ドイツ語現地実習2」が該当する。

ヨーロッパ文化学科

(2) フランス語圏文化コース: フランス語圏の文化に精通し、フランス語力を活かして国際的に活躍できる人材を育てる。

セメスター	総合科目		外国語科目		専門科目		合計単位数
1 年次 前期	20世紀の世界	2	英語	1	ヨーロッパ文化入門講座	2	20
	現代アートワークショップ	2	選択外国語I(1)(フランス語)	5	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール1	2	
	スポーツの歴史と文化	2			フランス文学史1	2	
					フランスの芸術1	2	
	小計	6	小計	6	小計	8	
1 年次 後期	アカデミック・ディベート	2	英語	1	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール2	2	20
	世界の言語と文化	2	選択外国語I(1)(フランス語)	5	フランス文学史2	2	
	人間と環境	2			フランスの芸術2	2	
	心理学と社会	2					
	小計	8	小計	6	小計	6	
2 年次 前期	世界の名著	2	選択外国語I(1)(フランス語)	1	中級ゼミナールA1	2	19
			選択外国語I(2)(イタリア語)	2	中級ゼミナールB1	2	
					初級フランス語会話1	1	
					初級フランス語作文1	1	
					フランス史	2	
					フランス思想史1	2	
					フランス語学1	2	
					人文学部合同プロジェクト	2	
	小計	2	小計	3	小計	14	
2 年次 後期			選択外国語I(1)(フランス語)	1	中級ゼミナールA2	2	20
			選択外国語I(2)(イタリア語)	2	中級ゼミナールB2	2	
			フランス語現地実習2	2	初級フランス語会話2	1	
					初級フランス語作文2	1	
					フランス語メディアリテラシー	1	
					フランス思想史2	2	
					フランス語学2	2	
					言語学	2	
				出版研究	2		
	小計	0	小計	5	小計	15	
3 年次 前期	インターンシップA	2			中級フランス語作文1	1	18
					上級フランス語講読	1	
					専門ゼミナール(文学と文化)1	2	
					専門ゼミナール(芸術と文化)1	2	
					フランスの政治と社会	2	
					ヨーロッパの文学1	2	
					イギリス文学史1	2	
					英米の芸術1	2	
					英米文学概論1	2	
	小計	2	小計	0	小計	16	
3 年次 後期					中級フランス語作文2	1	19
					専門ゼミナール(文学と文化)2	2	
					専門ゼミナール(芸術と文化)2	2	
					卒業論文準備ゼミナール	2	
					フランス社会史	2	
					ヨーロッパの文学2	2	
					イギリス文学史2	2	
					英米の芸術2	2	
					英米文学概論2	2	
				記号と消費の社会学	2		
	小計	0	小計	0	小計	19	
4 年次 前期					卒業論文ゼミナール1	2	2
	小計	0	小計	0	小計	2	
4 年次 後期					卒業論文ゼミナール2	2	6
					卒業論文	4	
	小計	0	小計	0	小計	6	
	計	18	計	20	計	86	124

※外国語科目の「選択外国語Ⅱ」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「フランス語現地実習2」がそれに該当する。

ヨーロッパ文化学科

(3) 広域ヨーロッパ文化コース:ヨーロッパ諸地域の言語と文化についての幅広い知識を活かして、国際的な事業に貢献できる人材を育てる。

セメスター	総合科目	外国語科目	専門科目	合計単位数
1 年 次 前 期	人間と科学技術の歩み	英語	ヨーロッパ文化入門講座	2
	スポーツの歴史と文化	選択外国語I(1)(フランス語)	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール1	2
	コンピューター・リテラシー	イタリア語入門1	ヨーロッパ交流史	2
			ヨーロッパ統合論	2
	小計	小計	小計	8
1 年 次 後 期	グローバル時代の歴史認識	英語	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール2	2
	グローバルイズムと21世紀	選択外国語I(1)(フランス語)	ヨーロッパ形成史	2
	キャリアデザイン論A	イタリア語入門2	ヨーロッパ都市論	2
	小計	小計	小計	6
2 年 次 前 期	キャリアデザイン演習	選択外国語I(1)(フランス語)	中級ゼミナールA1	2
		選択外国語I(2)(ドイツ語)	中級ゼミナールB1	2
		イタリア語中級1	初級フランス語会話1	1
			初級フランス語作文1	1
			フランス語LL	1
			現代ヨーロッパ社会論1	2
			ヨーロッパ古典文学	2
			ヨーロッパ経済1	2
小計	小計	小計	13	
2 年 次 後 期		選択外国語I(1)(フランス語)	中級ゼミナールA2	2
		選択外国語I(2)(ドイツ語)	中級ゼミナールB2	2
		イタリア語中級2	初級フランス語会話2	1
			初級フランス語作文2	1
			フランス語メディアリテラシー	1
			現代ヨーロッパ社会論2	2
			越境文化論	2
			ヨーロッパ環境論	2
		ヨーロッパ経済2	2	
小計	小計	小計	15	
3 年 次 前 期	インターンシップA		専門ゼミナール(歴史と文化)1	2
			専門ゼミナール(社会と文化)1	2
			ヨーロッパ思想史	2
			イタリア文化論	2
			スイス文化論	2
			現代スポーツ論	2
			グローバル化と現代社会	2
			英語と文化1	2
			アメリカ文化論1	2
小計	小計	小計	18	
3 年 次 後 期			専門ゼミナール(歴史と文化)2	2
			専門ゼミナール(社会と文化)2	2
			卒業論文準備ゼミナール	2
			ヨーロッパ対外交流史	2
			地中海文明論	2
			都市環境論	2
			言語学	2
			英語と文化2	2
			アメリカ文化論2	2
小計	小計	小計	18	
前 期 4 年			卒業論文ゼミナール1	2
小計	小計	小計	2	
後 期 4 年			卒業論文ゼミナール2	2
			卒業論文	4
	小計	小計	小計	6
	計	計	計	124

※外国語科目の「選択外国語Ⅱ」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「イタリア語入門1」「イタリア語入門2」「イタリア語中級1」「イタリア語中級2」がそれに該当する。

ヨーロッパ文化学科

(4) 比較・交流文化コース: 異文化間の関係についての知識を活かし、さまざまな分野で日本とヨーロッパの架け橋となる人材を育てる。

セメスター	総合科目		外国語科目		専門科目	合計単位数
1 年次 前期	他者理解とコミュニケーション	2	英語	1	ヨーロッパ文化入門講座	2
	多文化共生の現在	2	選択外国語 I (ドイツ語)	5	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール1	2
	スポーツ実践1(バレーボール)	1			比較文学論(日欧)	2
					テクノロジー文化論	2
	小計	5	小計	6	小計	8
1 年次 後期	現代社会と人権	2	英語	1	ヨーロッパ文化基礎ゼミナール2	2
	世界の言語と文化	2	選択外国語 I (ドイツ語)	5	比較思想(日欧)	2
	現代社会とアート	2			観光文化論(ヨーロッパ)	2
	小計	6	小計	6	小計	6
2 年次 前期	キャリアデザイン論B	2	選択外国語 I (1)(ドイツ語)	1	中級ゼミナールA1	2
	地球環境論	2	選択外国語 I (2)(フランス語)	2	中級ゼミナールB1	2
	自然科学集中プロジェクトA	1			初級ドイツ語会話1	1
					初級ドイツ語作文1	1
					ドイツ語LL	1
					比較芸術論1	2
					比較交流文化論1	2
	小計	5	小計	3	小計	13
2 年次 後期	文化財リサーチプロジェクト	2	選択外国語 I (1)(ドイツ語)	1	中級ゼミナールA2	2
			選択外国語 I (2)(フランス語)	2	中級ゼミナールB2	2
					初級ドイツ語会話2	1
					初級ドイツ語作文2	1
					ドイツ語メディアリテラシー	1
					比較芸術論2	2
					ヨーロッパの芸術	2
					比較交流文化論2	2
					メディア文化論	2
	小計	2	小計	3	小計	15
3 年次 前期	インターンシップA	2			専門ゼミナール(芸術と文化)1	2
					専門ゼミナール(歴史と文化)1	2
					比較・交流文化ゼミナール1	2
					比較建築空間論	2
					フランスの芸術1	2
					ヨーロッパ都市論	2
					日本の身体文化1	2
					マンガの社会学	2
					日英比較交流文化史1	2
	小計	2	小計	0	小計	18
3 年次 後期					専門ゼミナール(芸術と文化)2	2
					専門ゼミナール(歴史と文化)2	2
					卒業論文準備ゼミナール	2
					比較・交流文化ゼミナール2	2
					フランスの芸術2	2
					地中海文明論	2
					日本の身体文化2	2
					ビジュアルアート論	2
					日英比較交流文化史2	2
	小計	0	小計	0	小計	18
4 年次 前期					卒業論文ゼミナール1	2
	小計	0	小計	0	小計	2
4 年次 後期					卒業論文ゼミナール2	2
					卒業論文	4
	小計	0	小計	0	小計	6
	計	20	計	18	計	86
						124

日本・東アジア文化学科

(1) 日本文化コース: 日本の言語や文学を学び、中学(国語)の教職につきたい人材を育てる。

セメスター	総合科目		外国語科目		専門科目		合計単位数
1 年次 前期	情報技術と人間社会	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール1	2	15
	武蔵・環境フィールドワーク	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア1	2	
	心理学ワークショップ	2			書道演習1	2	
	小計	6	小計	3	小計	6	
1 年次 後期	アカデミック・ディベート	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール2	2	17
	世界の言語と文化	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア2	2	
	現代社会と環境	2			書道演習2	2	
	キャリアデザイン論A	2					
	小計	8	小計	3	小計	6	
2 年次 前期	現代社会と法	2	選択外国語 I (2)	2	日本の言語文化1	2	22
			中国語現地実習	2	日本近現代文学演習1	2	
					日本近現代文学史1	2	
					日本古典文学史1	2	
					日本の言語文化演習1	2	
					学校文化の社会学	2	
					ヨーロッパ統合論	2	
					ヨーロッパ形成史	2	
	小計	2	小計	4	小計	16	
2 年次 後期	キャリアデザイン演習	2	選択外国語 I (2)	2	日本の言語文化2	2	20
					日本近現代文学史2	2	
					日本古典文学史2	2	
					日本の言語文化演習2	2	
					日本近現代文学演習2	2	
					ヨーロッパ対外交流史	2	
					言語学	2	
					ヨーロッパ都市論	2	
	小計	2	小計	2	小計	16	
3 年次 前期	インターンシップA	2			日本環境文化史1	2	22
					日本語の表現1	2	
					日本芸能史1	2	
					日本古典文学史演習1	2	
					日本語の表現演習1	2	
					日本近現代史1	2	
					卒業論文準備ゼミナール1	2	
					英訳聖書入門1	2	
					比較交流文化論1	2	
					若者文化の社会学	2	
	小計	2	小計	0	小計	20	
3 年次 後期					日本環境文化史2	2	20
					日本語の表現2	2	
					日本芸能史2	2	
					日本古典文学史演習2	2	
					日本語の表現演習2	2	
					日本近現代史2	2	
					卒業論文準備ゼミナール2	2	
					英訳聖書入門2	2	
					比較交流文化論2	2	
					教育社会学	2	
	小計	0	小計	0	小計	20	
4 年次 前期					卒業論文ゼミナール1	2	2
	小計	0	小計	0	小計	2	
4 年次 後期					卒業論文ゼミナール2	2	6
	小計	0	小計	0	小計	6	
	計	20	計	12	計	92	124

日本・東アジア文化学科

(2) 東アジアコース: 東アジアの文化や言語を学び、中国との貿易活動に従事する人材を育てる。

セメスター	総合科目		外国語科目		専門科目		合計単位数
1 年次 前期	他者理解とコミュニケーション	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール1	2	15
	国際社会における紛争と協調	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア1	2	
	武蔵・環境フィールドワーク	2			書道演習1	2	
	小計	6	小計	3	小計	6	
1 年次 後期	デジタル・協働学	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール2	2	17
	世界の言語と文化	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア2	2	
	グローバル時代の歴史認識	2			書道演習2	2	
	現代社会と環境	2					
小計	8	小計	3	小計	6		
2 年次 前期	スポーツの歴史と文化	2	選択外国語 I (2)	2	日中交流史1	2	23
			中国語現地実習	2	日中交流史演習1	2	
					中国史1	2	
					中国史演習1	2	
					現代中国論1	2	
					中国語応用1	1	
					異文化コミュニケーション論1	2	
					アジア経済1	2	
					比較交流文化論1	2	
小計	2	小計	4	小計	17		
2 年次 後期	キャリアデザイン演習	2	選択外国語 I (2)	2	日中交流史演習2	2	25
					日中交流史2	2	
					中国史2	2	
					中国史演習2	2	
					現代中国論2	2	
					中国語応用2	1	
					文化財科学	2	
					環境社会学	2	
					アジア経済2	2	
					比較交流文化論2	2	
小計	2	小計	2	小計	21		
3 年次 前期	インターンシップA	2			中国の民族と社会1	2	18
					中国の民族と社会演習1	2	
					中国思想史1	2	
					中国思想史演習1	2	
					東アジアの地理と環境1	2	
					卒業論文準備ゼミナール1	2	
					国際社会学	2	
					グローバリゼーションと現代社会	2	
小計	2	小計	0	小計	16		
3 年次 後期					中国の民族と社会2	2	18
					中国の民族と社会演習2	2	
					中国思想史2	2	
					中国思想史演習2	2	
					東アジアの地理と環境2	2	
					イスラム圏交流史2	2	
					卒業論文準備ゼミナール2	2	
					言語学	2	
				グローバリゼーションの人類学	2		
小計	0	小計	0	小計	18		
前 期 4 年次					卒業論文ゼミナール1	2	2
	小計	0	小計	0	小計	2	
後 期 4 年					卒業論文ゼミナール2	2	6
					卒業論文	4	
小計	0	小計	0	小計	6		
計	20	計	12	計	92	124	

日本・東アジア文化学科

(3) 比較・交流文化コース: 日韓の交流の歴史を学び、日韓交流の仕事に携わりたい人材を育てる。

セメスター	総合科目		外国語科目		専門科目	合計単位数
1 年 次 前 期	他者理解とコミュニケーション	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール1	2
	多文化共生の現在	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア1	2
	国際社会における紛争と協調	2			情報コミュニケーション演習1	2
	スポーツ実践1(バレーボール)	1			比較交流文化論1	2
	小計	7	小計	3	小計	8
1 年 次 後 期	人間と環境	2	英語	1	日本・東アジア文化基礎ゼミナール2	2
	世界の言語と文化	2	選択外国語 I (1)	2	日本文化と東アジア2	2
	キャリアデザイン論A	2	中国語入門1	1	情報コミュニケーション演習2	2
					比較交流文化論2	2
	小計	6	小計	4	小計	8
2 年 次 前 期	日本の伝統と文化	2	選択外国語 I (2)	2	朝鮮文学史1	2
	キャリアデザイン論B	2	韓国・朝鮮語現地実習	2	日朝交流史1	2
					現代韓国論1	2
					朝鮮文学演習1	2
					日朝交流史演習1	2
					韓国・朝鮮語応用1	1
					アジア経済1	2
					観光コミュニケーション論	2
					異文化コミュニケーション論1	2
小計	4	小計	4	小計	17	
2 年 次 後 期	キャリアデザイン演習	2	選択外国語 I (2)	2	朝鮮文学史2	2
					朝鮮文学演習2	2
					日朝交流史2	2
					日朝交流史演習2	2
					現代韓国論2	2
					韓国・朝鮮語応用2	1
					アジア経済2	2
					観光人類学	2
					異文化コミュニケーション論2	2
小計	2	小計	2	小計	17	
3 年 次 前 期					朝鮮文化論1	2
					朝鮮文化演習1	2
					朝鮮史1	2
					比較思想(東アジア)1	2
					比較思想演習(東アジア)1	2
					環日本海文化論1	2
					卒業論文準備ゼミナール1	2
					現代ヨーロッパ社会論1	2
					現代スポーツ論	2
小計	0	小計	0	小計	18	
3 年 次 後 期					朝鮮文化論2	2
					朝鮮文化演習2	2
					朝鮮史2	2
					比較思想演習(東アジア)2	2
					環日本海文化論2	2
					卒業論文準備ゼミナール2	2
					現代ヨーロッパ社会論2	2
					スポーツ人間学	2
小計	0	小計	0	小計	16	
前 4 年 次					卒業論文ゼミナール1	2
	小計	0	小計	0	小計	2
後 4 年 次					卒業論文ゼミナール2	2
	小計	0	小計	0	卒業論文	4
					小計	6
	計	19	計	13	計	92
						124

※外国語科目の「選択外国語 II」は8単位まで総合科目の単位として算入できる。ここでは「中国語入門1」がそれに該当する。